

1976.5—1977.3までインドネシアのメンタウエ諸島の中のシブルット島において、ヤセザル類の生物社会学的調査を行なった。

9) エチオピアにおけるヒヒ類の社会学的研究

河合雅雄

エチオピアにおけるゲラダヒヒの社会学的研究についての論文を作製した。1975年8月から76年1月までに行なったアスビスヒヒとマントヒヒの種間雑種の社会生態学的研究のまとめを行なった。

10) ゲラダヒヒの生物社会学的研究

森梅代

エチオピア高地セミエン国立公園で50年10月から51年3月まで現地調査を行ったゲラダヒヒの研究のとりまとめを行なった。

11) 房総半島の翼手類の季節的移動と集団のなりたちに関する研究

鈴木晃

各地にちらばる複数の洞穴に居住する翼手類、ユビナガコウモリ、コキクガシラコウモリの調査を、1958—1961に引き続きマーキングをほどこして再開した。

総説

- 1) 鈴木晃 (1977): 霊長類の生態。「霊長類」人類学講座2 (伊谷純一郎編), pp.147—194, 雄山閣, 東京。
- 2) 鈴木晃 (1977): ニホンザル—その生息環境。人と自然 No.2 特集日本の鳥獣: その環境<1> pp.51-56.

論文

- 1) Mizuno, A., M. Kawai, and S. Ando (1976): Ecological studies of forestliving monkeys in the Kibale forest of Uganda. Kyoto Univ. African Studies, Vol. X., 1-35.
- 2) 河合雅雄, 菅原和孝 (1976): 雑種化と霊長類の進化 (1), 自然 31 (11): 48—57; (2), 31 (12): 64—79.
- 3) 鈴木晃 (1976): コドモを食べるチンパンジー。サイエンス, 6 (8), 18—29.
- 4) 鈴木晃 (1976): 霊長類の食性・遊動パターンと社会。生物科学, 28 (4), 210—216.
- 5) 鈴木晃 (1977): チンパンジーの社会と適応。“チンパンジー記” (伊谷純一郎編), pp. 251—336, 講談社, 東京。

報告その他

- 1) G. G. イートン (1976): ニホンザルの社会秩序。サイエンス, 6 (12), 103—114 (鈴木晃訳)。
- 2) 東滋 (1976): 岐阜県カモシカ生態調査報告。昭和50—51年度, 岐阜県。

3) 東滋 (1976): カモシカ被害と森林施業。中部林業研究会報告

学会発表

1) 屋久島のニホンザルの生活

Ⅰ. 遊動する群れのグルーピング

東 滋

第23回日本生態学会大会 (1976)

2) Recent mode of human impact and its ecological consequence on the survival of Japanese Black Bear.

Azuma, A and H. Torii

Fourth International Conference on Bear Research and Management.

3) 野生チンパンジーのグルーピングの機構

鈴木晃

第30回日本人類学会民族学連合大会 (1976)

4) 霊長類の地域個体群における社会的単位集団の不均等性と人口圧について

鈴木晃

第21回プリマテス研究会 (1977)

5) ゲラダヒヒの one-male unit のリーダーの交代と新しい Unit 形成

森梅代

第30回日本人類学会民族学連合大会 (1976)

変異研究部門

野沢 謙・和田一雄

西邨顕達<sup>1)</sup>・庄武孝義

研究概要

1) ニホンザルの集団遺伝学的研究

野沢 謙・庄武孝義

ニホンザルの血液蛋白の構造を支配する遺伝子の変異を電気泳動法によって検索し、群内、群間の変異性を定量化する。昨年度までにニホンザル約40群、総個体数約1,600頭の血液試料について、27種の蛋白の構造を支配する計30遺伝子座の検索をおこなった。このデータをもとにして、統計的検討を加え、繁殖単位間の毎代の移出入率、遺伝的変異の散布範囲などについて定量的推定を行い、ニホンザルの繁殖構造を解明すべく作業続行中である。

2) Macaca 属サルの系統的相互関係

野沢 謙・庄武孝義

ニホンザルを含む Macaca 属サル各種から採血をおこない、上記1)と同一の方法によって種内、種間の遺伝的変異性を定量化し、それら種間の遺伝子構成上の差を遺

1) 現在同志社大学工学部

伝距離で表現し、それに数値分類学的手法を適用して枝分れ図を描く。それにより種間の近縁関係、分化時間の推定等をおこなう作業を目下続行中である。これまでの結果をまとめて遺伝学雑誌に投稿した。

### 3) ニホンザルの先天的四肢奇型への遺伝学的アプローチ

野沢 謙・庄武孝義

ニホンザルの数多くの餌付け群に多発する先天的四肢奇型が遺伝的支配を受けているか否かを明らかにすべく研究が続行されている。集団の奇型出現の家族集積性のデータから統計遺伝学的手法を用いて遺伝率の推定をおこなう他、淡路島野猿公園の協力を得て、交配実験をおこなっている。

### 4) 家畜化現象と家畜系統史の研究

野沢 謙・庄武孝義

在来諸家畜とそれらの野生原種の遺伝学的野外調査によって、家畜化現象そのものの集団遺伝学的解明と、個々の家畜種内で地域集団間の遺伝的分化の程度、系統的相互関係の解明を行ないつつある。

### 5) エチオピアにおけるマントヒヒとアヌビスヒヒの種間雑種に関する遺伝学的研究

庄武孝義・野沢 謙

1975年8月より1976年3月までの海外学術調査によって入手した血液試料を分析し、マントヒヒとアヌビスヒヒの遺伝的差異を明らかにし、両者の雑種について遺伝学的考察を行った。その結果を1976年10月の日本遺伝学会で発表した。

### 6) エチオピア中央部のグリベットモンキーの血液蛋白の遺伝的変異に関する研究

庄武孝義・野沢 謙

上記海外学術調査の折に入手したエチオピア中央部のグリベットモンキーの血液蛋白の35遺伝子座位の検索を行い、その遺伝的変異性を *Papio* 属、*Macaca* 属と比較した。その結果を1976年11月の日本人類学会で発表した。

### 7) ネパールにおけるヒマラヤンラングールとアカゲザルの生物地理学

和田 一雄

1976年度には2種の生物地理学的調査に集中し、1977年度にはひきつづき2種の分布、食性、個体数などの調査を行なうと共に、低地、中部山岳、高山における季節的変化の調査も並行している。

### 8) 志賀 B<sub>2</sub>・C 群の春秋における群間関係

和田 一雄

個体識別されている野生の志賀 C 群を中心に、横湯川中流域における両群の接触がひんぱんに行なわれる時期に焦点を合わせて調査を継続中である。

### 9) ニホンザルの社会生態学的研究

西 邨 顕 達

主として高崎山のニホンザルを対象として第五次、および第六次群れ分裂を調査。高崎山における群れ分裂についてのモノグラフを作成。高崎山のニホンザルポピュレーションに関して大沢等と共同研究。

### 10) 広鼻猿類の社会生態学的研究

西 邨 顕 達

1975年～1976年にかけてアマゾン上流域におけるウーリーモンキーの調査に関する結果を整理、一部を発表。

## 総 説

- 1) 野沢 謙 (1977): 野生および半野生動物の集団遺伝学的アプローチ, ニホンザルを中心として。水産育種研究会記録 2, pp.15～18。

## 論 文

- 1) Nozawa, K., T. Shotake, Y. Ohkura, and Y. Tanabe (1977): Genetic variations within and between species of Asian macaques. *Jap. J. Genet.*, 51, 15—30.
- 2) Nozawa, K., T. Shotake, and Y. Ohkura (1976): Blood protein variations within and between the east Asian and European horse populations. *Z. Tierzuchtg. Züchtgsbiol.* 93, 60—74.
- 3) 西邨顕達・東 滋 (1977): カボコのチンパンジー。“チンパンジー記”(伊谷純一郎編), pp.59—151, 講談社。

## 報 告・その他

- 1) 西邨顕達 (1976): ウーリーモンキーの社会, ウーリーモンキーの行動。モンキー(第三次アマゾン調査特別号) 20 (1.2), 26—33, 34—37。
- 2) 西邨顕達 (1977): 高崎山の群れ分裂——第3次分裂より第6次分装まで。高崎山生息ニホンザル調査報告—1971年～1976年, 大分市。
- 3) 杉山幸丸・大沢秀行・西邨顕達・増井憲一 (1977): ポピュレーション・センサス(個体数調査)による高崎山生息ニホンザルの個体群動態。高崎山生息ニホンザル調査報告—1971年～1976年, 大分市。
- 4) 大沢秀行・杉山幸丸・西邨顕達 (1977): 識別個体の追跡による高崎山生息ニホンザルの個体群動態。高崎山生息ニホンザル調査報告—1971年～1976年, 大分市。

## 学 会 発 表

- 1) ニホンザルの繁殖単位間の移出入率の推定

野 沢 謙

第21回プリマーテス研究会 (1977)

2) ニホンザルの種内遺伝的変異

野沢 謙・庄武孝義  
大倉よし子

第49回日本遺伝学会 (1976)

3) マントヒヒ, アヌビスヒヒそれらの雑種の血液蛋白質の変異

庄武 孝義・大倉よし子  
川本 芳・野沢 謙

第49回日本遺伝学会

4) エチオピア中央部のグリベットモンキー (*Cercopithecus aethiops aethiops*) の血液蛋白質の変異

庄武 孝義・大倉よし子  
川本 芳・野沢 謙

第30回日本人類学会・日本民族学会  
連合大会 (1976)

5) 沖繩山羊の遺伝的変異性

庄武 孝義・新城 明久  
大倉よし子・野沢 謙

第66回日本畜産学会 (1977)

生活史研究部門

杉山幸丸・田中二郎  
小山直樹・大沢秀行

研究概要

1) ニホンザル個体群生態学的研究

杉山幸丸・小山直樹・大沢秀行

1. 霊仙山生息ニホンザル地域個体群の動態。餌付けを放棄した2つの野生群の全個体標識識別を基礎に、餌付け期間中と対比させながら人口学的研究を進めてきた。とくに本年度は自然環境下における出産率、初産年令、若年死亡等に新知見を得た。

2. 嵐山生息ニホンザルの個体群動態。全個体に関する出産・死亡・離脱などの資料の収集と分析をおこない、個体群動態解明にとりこんできた。

3. 高崎山生息ニホンザルの個体群動態。ポピュレーション・センサスとサンプル標識追跡によって、個体群構造の人口学的解析を進めてきた。とくに本年度は餌付け条件下における生命表の作成が試みられた(変異部門西邨顯達と共同)。

2) エチオピア高原におけるグラダヒヒの社会生態学的研究

大沢 秀行

昭和48年度の調査に引き続いて本年度も現地調査を継続し、集団構成と行動域、生息地の食物生産量、採食量との関係を追跡した。

3) 類人猿, 狩猟採集民・遊牧民の生態学的研究

田中二郎

ホミニゼーションの過程における生活様式と社会の復元を目的として、狩猟採集民, 遊牧民の生態学的研究を行なっている(年報第5巻15頁参照)。昭和49・50年度にまたがる現地調査の成果を比較生態学的な観点からまとめてきた。

白山山麓における山村住民の調査を行ない、アフリカでの調査との比較的な視点から考察した。

論 文

1) Sugiyama, Y. (1976): Life history of male Japanese monkeys. "Advances in the Study of Behavior, Vol. 7", pp.255-284, Academic Press, New York.

2) Sugiyama, Y. (1976): Characteristics of the ecology of the Himalayan langurs. *Journal of Human Evolution*, 5, 249-277.

3) 田中二郎 (1976): ラクダ遊牧民を追って。自然, 31, 36-46.

4) 田中二郎 (1976): 自然と住まいの人類学—狩猟採集民ブッシュマンの生活。アニマ, 42, 44-50.

5) Tanaka, J. (1976): Subsistence ecology of Central Kalahari San. "Kalahari Hunter-Gatherers—Studies of the !Kung San and their neighbors" (R. B. Lee and I. DeVore, eds.), pp. 98-119, Harvard University Press, Cambridge, Mass.

6) 田中二郎 (1977): ブッシュマンのサブシステム—その進化史的考察。生物科学, 29, 51-56.

7) 杉山幸丸・大沢秀行・西邨顯達・増井憲一 (1977): ポピュレーション・センサスによる高崎山生息ニホンザルの個体群動態。高崎山ニホンザル調査報告 1971-1975年, 5-18, 大分市。

8) 大沢秀行・杉山幸丸・西邨顯達 (1977): 識別個体の追跡による高崎山生息ニホンザルの個体群動態。高崎山ニホンザル調査報告 1971-1975年, 19-29, 大分市。

学 会 発 表

1) ラクダ遊牧民レンディーレの生態と社会

田中二郎・佐藤 俊

日本民族学会第15回研究大会 (1976)

2) レンディーレ族の環境適応について

田中二郎・佐藤 俊

第13回日本アフリカ学会学術大会 (1976)

3) ニホンザルのグループダイナミクス